

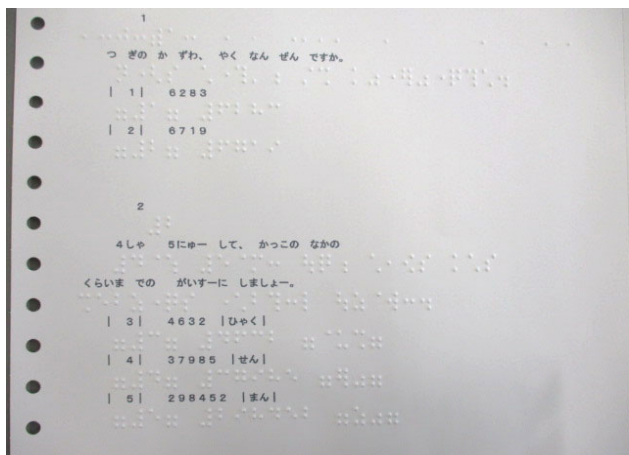
令和4年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【1年目】

P T A名	静岡県立浜松視覚特別支援学校 P T A
学 校 名	静岡県立浜松視覚特別支援学校 <input checked="" type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
全校児童・生徒数	25人

1. 使用状況

寄贈物品名	点字プリンター
使用学年及び人数	小学部児童2名、中学部生徒3名、高等部普通科5名、専攻科9名 職員室教員35名、寄宿舎職員13名
使用頻度	10回～20回/日
使用状況	<p>普段は墨字で学習する生徒たちが自立活動等で点字を勉強する際に活用することが多い。また教職員が授業で児童生徒に配布する点字の資料等を印刷する際にも使用している。</p> <p>10月に行われた文化祭では、高等部普通科の弱視生徒が実行委員長を務め、開会式や閉会式の運営にあたった。その際、自分のタブレット端末で作成した計画書や台本原稿を全盲生徒に伝えるために本点字プリンターを頻繁に活用した。</p>
物品の使用による変化や効果	<p>本点字プリンターは、点字と墨字が同時に印刷できるので、墨字使用の生徒が点字を覚えるのに大変効果を発揮している。視覚障害の進行や失明に備えてということを考えると、下を向いてしまうほどの重いことであるが、本点字プリンターのわかりやすさ、習得する面白さをきっかけに自身の障害を少しずつ受容し、前向きに学ぶ姿勢につながっている。</p> <p>これまで、点字で学ぶ生徒と墨字で学ぶ生徒がメモをやり取りすることができなかったが、教師が間に入り支援しながらであるが、メモや記述した文等の交流する様子も見られた。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>現在設置場所を検討しているが、小中高、専攻科生みんなが使い易い場所をつくり、さらに利用者数を増やしていきたい。また、教師が間に入ることなく生徒同士が点字と墨字で交流できるようにしていきたい。</p>
その他希望や所感など	<p>前述のように、生徒同士が教師の支援がなくても点字と墨字の交流があたりまえのようにできる環境づくりに努めなければならない。また、墨字使用児が点字を学んでおかなければならないというのは重い現実ではあるが、本機が希望へとつながる可能性も感じている。感謝の気持ちを込めて、メンテナンスや清掃(長く大事に使うこと)を学ぶきっかけにもしたい。</p>

2. 活用の様子



点字と墨字が同時に印刷されるので、点字で学習する生徒と点字で学習する生徒がいる学級で学習の成果等を共有することができる。



墨字使用の生徒が点字を学ぶ場合、点字を書く(入力)することよりも、読むことの方が難易度が高い。同時に印刷された教材は、効率的に読みの学習を進めていくことができる。



これまで生徒同士で点字と墨字の交流をすることができなかった。本機のおかげでメッセージやメモの交換が実現した。



「希望につながる点字プリンター」
将来的な視力低下や病変等による失明は重い現実がある。分かりやすさが学びをサポートし、学びは苦難を乗り越えて希望へとつながると信じている。